

誠之堂（深谷市）

2014年8月 訪問
埼玉モダンたてももの学生レポーター
埼玉大学教養学部 島澤 陽平



大正5年に、当時第一銀行の頭取であった澁澤栄一の喜寿を祝うために、行員たちが出資してつくられた建物です。

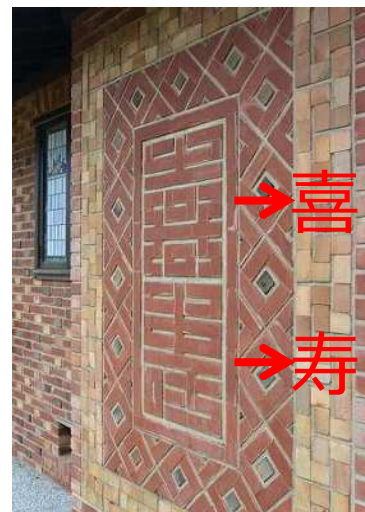
当時は、会議や来客の接待のために、この建物は使われていました。

もともとは、東京都世田谷区瀬田の、第一銀行の保養所だった、清和園の中にありました。

取り壊しの計画になってしまったために、平成11年に、栄一の生誕地である深谷市に移築されました。

このようなレンガ造りの建物を移築することは、世界で初めてのことでした。

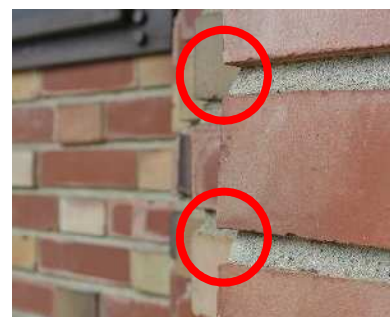
建物の中や外のいたる所に、細かな装飾がなされています。
当時の職人の仕事の細かさが伝わってきます。



外壁では、レンガで「喜寿」の文字が作られています。栄一が、行員たちからとても慕われていたことがわかります。普通のレンガの積み方では、レンガとレンガの隙間に、すべて目地が入っているのだから、文字になっていることは分かりにくくなってしまいます。ここでは、目地の入れ方を工夫して、はっきりと文字が分かるようになっています。

外壁のアクセントの工夫！

レンガがあえて飛び出ているところがあります。飛び出たところは、斜めに並んでいます。



レンガの間の目地がわざと斜めになっていることが分かるでしょうか？

このように、普通では気が付かない所も、細かな技が使われています。職人のこだわりが驚き！



天窓みたいですが・・・実は明かり取りのためではありません！
この窓は、設計者が建物のデザイン性を高めるためにあえてつくったものです。
また、屋根裏への入り口も兼ねています。

レンガに刻印があるのが分かるでしょうか？

写真の文字の向きは上下逆さですが「上敷免製」と刻まれています。
上敷免とは、澁澤栄一が中心となり設立した、日本煉瓦製造会社があった、深谷市の地名です。
栄一も、建物のレンガも、深谷とのつながりがありました。



中には、大きな暖炉が置かれています。
これも、外側と同じレンガでつくられています。
この両脇の柱の積み方にもひと工夫が！
横の目地を目立たせるために、縦の目地を「覆い目地」として、遠くからではわからないようにしています。



建物の中では、3枚のステンドグラスがあります。



これは、1つの意味をなして、昔の中国の、貴族の宴席を表しているとのこと。



まさに、栄一の喜寿の祝いの席のようにも見えます。

白いドーム型の天井にも、栄一へのお祝いのメッセージが！



文字のようなものは、「寿」という字を表しているそうです。
他にも、雲と鶴の模様もあります。
これは、朝鮮の「雲鶴（うんかく）青磁」の意匠を取り入れたものだそうです。

雲

鶴



最近では、群馬県の富岡製糸場などと合わせて、栄一の足跡をたどる観光客が多く訪れるようになってきているそうです。